



<校庭のハナミズキ>

5月(皐月)になりました。5月は田植えなどの苗植えの時期です。昔は、この苗植えをする月のことを「早苗月(サナエツキ)」と言い、後に、このサナエツキという言葉が、短く略されて「皐月(サツキ)」と言われるようになっていきました。

ニュージャージーの初夏は新緑の季節です。茶色だった樹林が一斉に新緑に変わり、目にしみるような緑を背景にハナミズキのピンクと白が映え、公園のチューリップも今を盛りと色とりどりに咲き誇っています。

補習授業校の5月もビッグイベントの大運動会を控えて、益々活気づいています。子どもたちの笑顔のために今月もみんなで協力していきたいと思っています。

スタート449名!



4月2日に入園・入学式、始業式を実施し、幼児・児童・生徒合計449名で本年度をスタートしました。



始業式では校長より、「日本語の難しさ」について

の話がありました。以下に話の概要を紹介致します。

「日本語は、世界に5000以上ある言語の中で5番目に難しい言語であると言われていています。このように難しいと言われる日本語を使ってみなさんは週1回5時間、年間210時間学んでいます。一方、現地校では英語を使って年間1200時間と、補習授業校に比べて約6倍の時間を費やして学びます。このように授業時間だけを取ってみても、日本語による学習が補習授業校だけでは不十分であることがわかります。

では、どうすればよいのでしょうか。方法は2つです。一つ目は、補習授業校の1日を日本語で過ごすこと。二つ目は、家庭でも出来るだけ日本語を使うこと。

そして、勉強では教科書の音読を継続することが大切です。」以上のような話をいたしました。

補習授業校の最大の目的は、「日本語能力の伸長」です。各クラスや廊下には標語「日本語で話そう」を掲示しています。授業中はもちろん、休み時間でもできるだけ日本語を使うようにしていきたいと思っていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



初めての毛筆体験!



<毛筆指導の様子>

4月23日は3・4年生の参観・懇談会の日でした。1時間目の参観授業を終えた3年生は懇談会を行っている間、北カフェで初めての「毛筆」を体験しました。白い半紙、墨、筆などを初めて目にする子どももいて、担当教師は筆の持ち方から後片付けの方法まで丁寧に指導しました。子どもたちは先生の話に熱心に耳を傾けた後、さっそく「ニ」の文字に挑戦しました。

白い半紙、墨、筆などを



<3年生の毛筆体験>

アクティブ・ラーニングとは

未来社会を見据えた次期学習指導要領

今、次期学習指導要領の改訂作業が中央教育審議会(文部科学省の諮問機関)で行われています。

今回の改訂は、次期学習指導要領で学んだ子どもたちが社会に出る10年~20年後の未来社会を見据えた改訂であり、2020年度初等部、2021年度中等部、2022年度高等部と順次実施されます。

また、次期学習指導要領の中央教育審議会答申は、今年度中(2018年)に予定されています。

今回の改訂で話題になっている「アクティブ・ラーニング」について少し説明させていただきます。

なぜ今、「アクティブ・ラーニング」なのか

今後数十年先の未来社会は、知識基盤型の成熟社会の下、少子高齢化、グローバル化、情報化が加速度的に増す社会が長期にわたって持続するものと考えられています。



<4年生の班学習>

このような時代に生き、社会に貢献していくためには、生涯にわたって学び続ける力や主体的に考える力等の能力とともに、想定外の事態に遭遇したとき、そこに存在する課題を発見したり、

それを解決するための筋道を見定める能力などが求められます。

このような能力を育むためには、従来のような座学による知識の伝達・注入を中心とした授業から、生徒が主体的に課題を発見し「解」を見出していく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要です。そのために必要な能力として、汎用的能力の育成が言われています。

汎用的能力(ジェネリック・スキル)

- ①前に踏み出す力(主体的・実行力)
- ②考え抜く力(課題発見力・計画力、創造力)
- ③チームで働く力(発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・規律力・ストレスコントロール力)

(長崎大学におけるアクティブラーニングの事例 第1集参照)

「アクティブ・ラーニング」の具体例

「アクティブ・ラーニング」とは、学修者の能動的な学びへの参加を取り入れた学習方法の総称です。

具体例としては、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等があります。

いずれも従来から行われていた学習方法ですが、次期学習指導要領では汎用的能力の育成という目的を明確に持ちながら、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れる工夫が求められることとなります。

「学修」という表現は中教審答申で使用されています。

(文科省 用語集参照)



全国学力調査問題の紹介

先月19日、日本国内の小学校6年生と中学校3年生を対象にした標記の調査が実施されました。この目的は、「全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証してその改善を図る。」ことです。

問題は国語と算数・数学の2教科で、知識を問う A 問題と、応用力を問う B 問題に分かれ、毎年子どもたちに考えさせる問題が多く出題されています。

以下、算数 A と B の問題を1問ずつ紹介いたします。

(解答は掲載しておりません。)

小学・算数 A 問題

1 次の問題に答えましょう

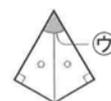
(1) $\square \div 0.8$ の商の大きさについて考えます。

\square には0でない数が入ります。

下の1から3までの中から、正しいものを1つ選んでその番号を書きましょう。

- 1 $\square \div 0.8$ の商は、 \square より大きくなる。
- 2 $\square \div 0.8$ の商は、 \square より小さくなる。
- 3 $\square \div 0.8$ の商は、 \square と同じになる。

小学・算数 B 問題

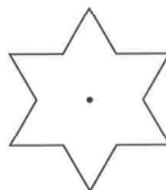


③の四角形

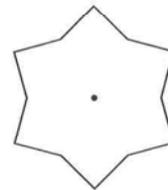
㊦の角が1つの点のまわりに集まるように、③の四角形を並べていくと、6つで、ある形ができます。どのような形ができますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

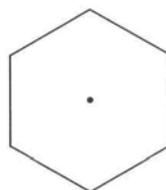
1



2



3



4

